

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年9月7日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	輸送用機械器具製造工場における工業炉（加熱炉）の更新による排出削減事業（方法論 003）
承認番号	KC1160
排出削減事業者名	新発田鍛工株式会社
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社 （その他関連事業者名：なし）
事業実施場所	新発田鍛工株式会社 （住所：〒957-0082 新潟県新発田市佐々木2907番地）
事業の概要	既設の工業炉を更新し、且つ、使用燃料を再生重油（A重油相当）から都市ガスへ転換することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。
排出削減	2011年度： 685 tCO2 2012年度： 1,646 tCO2 2013年度： 1,631 tCO2 2014年度： 1,581 tCO2 2015年度： 1,589 tCO2 2016年度： 1,610 tCO2 2017年度： 944 tCO2 （事業実施期間合計 9,682 tCO2）
クレジット認証期間	開始日 2011年11月1日 終了予定日 2019年10月31日
排出削減方法論	方法論番号003「工業炉の更新」

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2018年3月31日（第2回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	10,953 tCO ₂ (2013年4月1日～2018年3月31日)
-------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 鍛造作業日報、ガス炉月報並びに集計データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 鍛造作業日報、ガス炉月報並びにモニタリング担当者へのヒアリングにより工業炉の実施後のエネルギー原単位がモニタリング計画に従い、確認され適切に保存されていたことを確認した。 2) 活動量の正確性 鍛造作業日報、ガス炉月報並びに集計表より活動量である、都市ガス使用量並びに鍛造品の重量が正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 都市ガスの単位発熱量、都市ガスの単位発熱量当たりの排出係数は、供給者提供値を使用していた。また、再生重油(A重油)の排出係数は、J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.2の数値と同じ数値が使用されていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果を都市ガス並びに製造量の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2011年月21日から 2018年 3月31日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2019年10月31日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において承認排出削減事業計画からの変更はない。

6. 特記事項

- 本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 3,219.8kL、124,798GJであることを確認した。
- 前回削減量(1,640tCO₂/年)に対し今回削減量(2,190tCO₂/年)と133%であったのは製造量の増加25%が主な要因と推定した。

以上